



「心を探る」生き方リサーチ⑤

日本人の底力



社団法人 倫理研究所



日本人ってダメなの？

日本人ほど自国の民を論ずることが好きな国民はいないといわれます。書店には「日本」を論じた書籍が並び、テレビでは評論家からお笑い芸人までが「日本のゆくえ」を語っています。私たち普通の日本人が大上段から「日本人」について語る機会はそう多くはないかもしれませんが。

一方でスポーツの国際試合などを見て「日本人だから仕方ないかも」などとつぶやいたり、流暢な英語でインタビューに答える姿に「日本人なのにすごいな」と感心したり……。このようなこと、頻繁にありませんか。

これは二つのことを表しています。ひとつは「日本人としての集合意識の強さ」です。私たちは知らず知らずのうちに日本人全体を語っているし、その中に自分を含めることを疑っていません。もうひとつは「相対的な日本（日本人）評価」です。こんなとき私たちは世界と比べて日本を評価しています。まるで「世界」という絶対的な価値がそこに存在することを疑っていません。

この二つのことは実はとても珍しいことです。多くの諸外国では、おそらく人々はまず「自分」を主体として語るでしょう。多種多様な考えや感受性を持った「自分」の集合が、ある特定の価値観や歴史を奉じた国を形作っていると考えられるでしょう。この考え方のもとでは「自分」




も「国家」もしっかりとした主張のある一貫した存在です。

それに対して日本人とわが国「日本」はどうでしょう。日本人の多くは自己主張がそれほど強くなく、周囲の人たちがどう考えるかをまず見極めてそれに合わせていこうとする傾向が強いようです。私たちは(今まさにそう語っている私のように)「自分」ではなく、「私たち」を主語として語ることに大きな違和感を覚えません。アメリカのオバマ大統領のスピーチは We(私たち)を主語とすることで多くの共感を得たとされています。こうした話法が意味を持つというくらい、普段は I(私)が確固たるものなのです。

日本人の日本認識を語るうえで重要な「集合意識の高さ」と「相対的な日本評価」という二つの特徴は、相互の対立を「解決」するのではなく「調整」してしまっ点や、明確な意思決定を行わず「情勢」に従っ点など、批判あるいは批評の対象となることが多いようです。しかし、これらは本当に日本人のダメな部分なのでしょうか。

漠然とした「世界」を基軸にして相対的に自分たちのことを語るこの日本人のやり方について、思想家でもある内田樹は「辺境的」というラベルを貼りました。確かに私たちの社会とは違っところに何らかの「絶対的な価値」があり、それと比較して自らを定置する癖が日本人



にはありそうです。その結果、「私たちの絶対的な在り様」は常に語られることはないのです。

今年、日本には未曾有の災害が発生し、それを契機として国際社会はこれまで以上に日本と日本人について深く知ることになりました。外国の目に映った日本と日本人は、私たちが想像していた以上に多くの人々の心をとらえたといっているでしょう。ここでは「集合意識の高さ」や「相対的な自己評価」の極めてポジティブな面が表出されたのです。

外国の目が見つめた日本と日本人の美点を、日本人はどうとらえているのか。本書では、私たち日本人による



日本人認識の細部を検証し、その美点と弱点を探っていきたいと思います。願わくば、なかなか語られることのない「私たちの絶対的な在り様」が浮き彫りになれば幸いです。

(海野 裕)



ブローグ

日本人ってダメなの？

.....
2

日本人に訊いた「日本人とは？」

.....
11

日本人らしさって、なに？

.....
12

〈ランキング〉 実感度トップ10

.....
20

〈ランキング〉 合致度トップ10

.....
22

〈ランキング〉 重視度トップ10

.....
24

日本人意識の背景考察

.....
26

祈りの存在としての皇室

.....
28

八百万の神と日本人

.....
36

〈ランキング〉守るべき資質

.....
42

伝えたい、尊敬される日本人

.....
44

日本人も驚く、海外の日本人評価

.....
54

日本人墮落論

.....
62

〈ランキング〉変えるべき気質・性質

.....
68

日本人の課題・改善点

.....
70

エピソード

日本人の「私」がどうあるべきかを問え

.....
74

